



週報Rotary



所沢西ロータリークラブ

R1 第2570地区第3グループ

会長 内田 学
幹事 高橋 和男

会長エレクト 堀江 大

クラブ管理運営委員長 本橋 源太郎

例会場 〒359-1127 所沢市星の宮1-3-5 ベルヴィザ グラン TEL 04-2923-4122
事務局 〒359-1143 所沢市宮本町2-22-25 角田ビル3F TEL 04-2926-1666
例会日 毎週火曜日 (PM12:30~13:30) FAX 04-2926-5151
E-mail nishirc@dream.ocn.ne.jp <http://www.tokorozawa-nishirc.net/>

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

1. 点鐘…会長 2. 斉唱…ロータリーソング 3. 来賓紹介 4. 会長、幹事報告 5. 委員会報告

第 1457 回例会 2016・10・25

卓 話	例会当番	記念祝福
10/25 「所沢市のこども発達支援」NPO 法人 こどもの木 田中 寛子様 11/1 例会取消 11/8 例会振替 地区大会	和記 毅	

■出席報告	
月 日	10/18
会員数	27
出席者	22
出席率	81.5%
前回修正	96.3%

パスト会長の時間

石井 實



この頃、青少年の凶悪な犯罪が多発しているようです、色々な原因や理由があると思いますが、

- 1 まず、刑法の尊属殺人の項目がなくなったこと、昭和 40 年代
- 2 家族構成が変わったこと、昔の祖父、祖母、父母、子供たち
- 3 パソコンゲームによるリセット
- 4 そして終戦を境にへんな民主主義思想の結果、年長者を敬う心がうすれ、権利だけを主張する人たちが増えたことが、原因かもしれません。(モンスターペアレントやクレーマー)

健全な青少年を育てるのが我々の役目だと思います。

幹事報告

石井 秀夫

- ◆ビジョン策定特別委員会 活動趣意書
～日本のロータリー100周年に向けて～
- ◆ハイライトよねやま 199号
- ◆第34回インターアクトクラブ合同奉仕活動開催
11/13(日) 10:00～ 西武学園文理高等学校
- ◆RLI-セミナーパート2 参加募集
- ◆さきたま古墳見学研修セミナー参加者へのご案内
- ◆[RIJO-FAQ]配信履歴 (～2016年9月末)
- ◆第38回 パギオ訪問 募集要項
- ◆学友会ニュース 第198号
- ◆青少年派遣交換学生の「9月 月次報告書」
- ◆ロータリー財団 100周年記念チャリティーゴルフ大会 順位一覧表
- ◆週報・・・飯能 RC、入間 RC、狭山中央 RC、新所沢 RC、所沢東 RC、所沢中央 RC

米山記念奨学部門委員長（入間 RC）

忽滑谷 明様 米山月間にあたり 卓話の機会を
いただきありがとうございます。本日は奨学生
共々お世話になりますが 宜しくお願ひ致します。



石井 實 地区米山部門委員長 忽滑谷 明様 奨
学生 劉 詩蕾さん ようこそお出で頂き有難う
ございます。

堀江 大 忽滑谷様ようこそ。本日、宜しくお願
ひします。

室伏 秀樹 忽滑谷米山委員長様 本日は御苦勞様
です。よろしくお願ひします。劉さんもよろしく。

石井 秀夫 米山記念部門委員長 忽滑谷 明様 本
日は有難うございます。どうぞ宜しくお願ひ致し
ます。フラダンス 須藤様ようこそ 。ごゆっくり
していって下さい。

本橋源太郎 忽滑谷様 毎年有難うございます。本
日は宜しくお願ひ致します。

鈴木 伴忠 忽滑谷さん 本日の卓話宜しくお願ひ
致します

上野 孝二 ロータリー財団 100 周年記念チャリ
ティーゴルフ大会年齢順で 1 位に成りました。有
難うございました。

本橋 正夫 本日 フラダンス 須藤様大変有難う
ございます。例会楽しんで下さい。

卓話

米山月間卓話

劉 詩蕾様 中国 立教大学

- 1 自分の生まれた国、町の紹介
- 2 日本を留学先に選んだ理由、また日本に来ての感想
- 3 現在の研究テーマ
- 4 将来の夢、仕事

5 米山記念奨学生となって変わったこと(必須)



私の故郷は中国の南に位置する大きもなく、小さくもない町です。日本ではとあるメーカーさんのおかげで福建省といえば「ウーロン茶」のイメージがあるらしいですが、その他にも例えば鉄観音や大紅袍（だいこうほう）などいろいろなお茶があります。私が育った福建省福州市という町でいえば、ジャスミンティーが市の茶と言われたりもしています。

福州はそれほど発展もしていなく、かといってそれほど遅れているわけでもなく、普通の町のように思います。生活のペースがちょうど良く、緑も多くて、雨がよく降るが、夏は死ぬほど暑い沿岸部の町です。十代の頃はとにかく町から出たくて一生懸命勉強したのですが、大学を機に北京に行くと、自分でもびっくりするほど故郷の良さを思い知らされました。食べ物の豊かさなど気にもしなかったのですが、大学の食堂で葉菜類が殆ど見当たらないことに驚き、市場で果物の乏しさに涙が出るほどでした。家では飽きるまで食べたエビも、全然食べられなかったせいで無性に恋しくなり、その後まさかの好物となってしまいました。そうした北京での「不満足」な生活を 5 年間過ごし、チャンスをいただいて上海に移り住むことになりました。再び沿岸部の町に住むことで、改めて自分は海鮮好きだと実感させられ、また当時の仕事で全国各地に出張する機会が多く、自分は南出身の人間として薄味を好むことに気づかされました。そうして 20 年以上鈍感すぎるくらい生きてきましたが、気付いてみれば自分の特に食に関する好みはいかにも日本とのご縁を感じさせものだと、嬉しく思いました。

そのため、日本を留学先に選んだのも、ある意味とても必然的のように思います。（高校からアニメを観て、大学で喋りはじめて、卒業したら日本メデ

ィアに就職して、反日デモ取材して違和感を感じて、留学を決めた)

留學生活は去年4月から始まりましたが、それまでに何回か旅行で日本に来たことがありました。実際に暮らすことと観光とはかなり異なるものだと今回の留学を通して実感しました。旅行で来たときの日本は私にとってある意味憧れのような存在で、遠くにあって、観念的な世界でしか認識できませんでした。しかし実際に暮らすことによって、日本がより身近になり、自分の実体験に基づいて日本を認識したり考えたりすることができるようになりました。例えば2009年最初に日本に来たとき、おそらく北京から来たこともあり、当時は日本のキレイさにもものすごく驚きました。話しは聞いていましたが、ゴミひとつ落ちていない町を目の前にして、私は文字通りしばらく言葉を失くしました。その後何回か日本に来ているうちに日本のキレイさに慣れてしまい、はじめて日本を訪れた友人が「日本は本当にきれいだね」と驚いたとき、むしろ当たり前のように思ってしまうくらいでした。しかし実際に暮らすことになるまで、私はこのきれいさの理由をきちんと理解できていなかったと思います。ひとつの理由としてあげられるのはゴミの分別ではないかと思っています。最初はややこしくて頭を抱えたりしましたが、ゴミ＝汚いではなくて、例えばペットボトルを洗ってから出すなど、ゴミ処理ひとつひとつに対する努力が最終的にきれいな町につながっていると気付きました。単純に概念として日本はきれいだと驚いたり、当たり前のように受け止めたりするのではなく、日本は何故きれいなのかを身をもって理解することができました。これはやはり生活してみ、自分の町の一員としての自覚がなければ気がつかなかったのだと思います。こうした自分の体験に基づいて日本を認識することについての知見を得ながら、中国の若者の対日感情の矛盾をテーマに研究を進めています。

そしてもう一つ、日本に来て大きな違いを感じたのは、ついこの間まで続けてきた就職活動でした。中国では日本ほど、ある日を境目に全員が全員リクルートスーツに身を包まれて就職活動にいそしむ風景はないものの、やはり大学四年生になれば就職を考える人はインターンシップをしたり履歴書を

出したりして、仕事を探していました。・・・なかでも一番異なると感じたのは、日本の企業が最も重要視しているのは、現時点の能力よりも就活生の「人となり」のように思いました。(自分の就職先。訪日インバウンド。自分がやりたいMICE事業(観光だけではない、体験重視))



奨学生となって：秩父音頭祭りの踊り（踊りのことは前に聞かされており、ずっと自分にできるかと心配していました。単に踊っていればそれで十分はなすがなく、ある意味日本の伝統的な舞踊なのではとこっそりプレッシャーを感じるほどでした。ところが踊りを教えてくれる先生がとても優しい方であるうえ、みんなで楽しくゼロからやり始めたおかげで、緊張がだんだん和らいでいきました。それでも、指で数えてしまうほどの動作を覚えるのに必死で頑張りました。最終的にはもちろんアマチュア感丸出しでしたが、先生からは「まさかみんなこんなに真面目に勉強するとは驚いた」と褒められ、奨学金委員会からも「今年が一番うまいかもしれない」と励まされ、確かに賞はもらえませんでした。少なくとも自分たちの頑張りが認められたという達成感を味わえました。いろんな出来事を単に「成功」か「失敗」で見えてしまえば、成功しない限りそれまでの努力さえ否定されてしまいます。しかし失敗したとしても、それまでのプロセスに注目することで、物事の捉え方や様々な感情を学ぶことができると、今回の祭りで実感しました。実際、夜みんなで見た花火大会も、東京の隅田川花火大会の豪華さに比べられないが、力を尽くして頑張った後の感動は最高でした。)

／「私だからできる」と自分に言い聞かせる。

／米山研修旅行・記念館で聞いた話（社会奉仕、ハンセン病患者への支援）

今週の担当 石井 秀夫